

よさこいのOT名鑑

～ あなたの作業療法 Vol. 3 ～

医療法人新松田会 愛宕病院

野口 奈菜 氏

【プロフィール】

高知県南国市出身。

土佐リハビリテーションカレッジ卒業後、
医療法人新松田会愛宕病院に入職され、現在に至る。



武市

OTを目指したきっかけは何ですか？ また、専門学生時代はどんな思い出がありますか？

野口氏

高校時代はずっと保育士になりたいと思っていたのですが、就職のことを考えている時に土佐リハビリテーションカレッジ（現：高知健康科学大学）のオープンキャンパスを母から紹介されて見学に行ったのがきっかけでした。そこで作業療法士の仕事を知り、やりがいのある仕事だと思い入学しました。学校での勉強は医学的なことなど今まで知らなかったことばかりで、勉強がとても大変でした。それでも、テスト期間や国家試験対策ではゼミのメンバーと協力しながら勉強できて、とても励みになりました。また病院などでの実習前には先生やクラスのみinnと決起会をして挑んだのですが、実際に患者様の前に立つと緊張してうまくいかないこともありました。実習が終わった後にはお疲れ会をして、先生やクラスのみinnと実習の話をしたりと普段聞けない話をできたことは良い経験になりました。学生生活の思い出は、文化祭やスポーツ大会に向けてクラスのみinnと練習したり準備したことを覚えています。大変なこともありました、楽しみながらできたのはとても良い思い出です。他にも友達と旅行に行ったりご飯を食べに行ったりして充実した学生生活でした。

武市

今の職場に就職したきっかけを教えてください。

野口氏

学生の時に当院を見学させていただく機会があり、認知神経リハビリテーション（以下：認知神経リハ）を初めて見学したのですが、こういうリハビリで身体機能や生活動作が改善することに魅力を感じたのがきっかけでした。先輩方に教えていただきながら自分も勉強して取り組んでいますが、患者様の生活が少しでも良くなるようにこれからももっと勉強して実践できるようにがんばります！

武市

愛宕病院でのお仕事について教えてください。

野口氏

私が担当させていただいている患者様は脳血管疾患や整形疾患、廃用症候群の方などです。毎日の業務では自分の担当を中心に7～10人くらいの患者様を担当させていただいています。他の施設や病院では急性期から回復期に患者様に移る際、担当のセラピストが変更することがあると思いますが、当院では患者様が入院されてからセラピストが変更せずに退院まで担当することができるので、セラピストにとっては達成感ややりがいを感じることができますし、患者様にとっても安心してリハが受けられるのが良いことであると思います。当院は年代の近いセラピストが多いので、仕事のことも相談できるし、プライベートでもご飯を食べに行ったりと仲の良い職場です。

武市

趣味や仕事以外での楽しみはありますか？

野口氏

私の趣味というか楽しみなことはよさこいです。よさこいは土佐リハの学生時代に初めて参加しました。コロナ禍や社会人になって数年間が空きましたが、昨年から仲の良い友達と一緒に参加しています。よさこいが始まるまでの約2ヶ月間は仕事の後に練習したりと大変ですが、本番が始まると楽しくて大変だったことも忘れ、家族や友達、職場の方が見に来てくれたりするのも楽しみで、張り切って踊っています。よさこいがきっかけでたくさんの方に出会い、リハビリ以外のお仕事の方と関わることでいろいろな話を聞いたことが私にとってすごく良い経験になりました。これからも続けてよさこいに参加したいと思っています。その他には、カフェとか美味しい居酒屋とか調べて行ったりするのも楽しみの一つで、最近はまだ行けていないので、いろいろ調べて行きたいと思っています。



武市

最後に、これからの抱負やどんな作業療法士になりたいか教えてください。

野口氏

当院では認知神経リハや様々な手技などを学べる職場であり、いろいろな知識や技術を身につけられるように勉強していきたいと思っています。患者様がどうなりたいか、どんな生活を望んでいるかを聞き出し、どうすれば元の生活に戻れるのか、退院された後の生活を考えてそれに沿った作業療法が行えるようにがんばりたいと思っています。

取材・文責：武市 啓志（訪問看護リハステーションドリームチーム）
取材同行者：柳本 由美（岡豊病院）
取材同行者：渡邊 一規（Clover Kids）